

案件（１）前回分科会のふりかえりとルート案の修正について

1. 第6回分科会（令和3年2月19日）での検討内容について

- ◆第6回分科会では、第5回分科会での意見をふまえ、箕面市域外のアンケート集計結果のルート案への反映及び速達性・需要予測・採算性の検証結果を確認し、「分科会での検討に基づく再編ルート案」についての検討を行った。
- ◆分科会での検討やアンケートの集計結果をふまえ修正された「阪急バス案」を確認した。
- ◆「分科会での検討に基づく再編ルート案」と「阪急バス案」を比較し、相違点や今後の検討の進め方について議論した。

2. 第6回分科会での意見内容

- ◆第6回分科会の主な意見は下記のとおり。

①箕面山麓線を他の既存・新設路線で代替することについて

- ・箕面山麓線を既存の彩都線・北大阪ネオポリス線の箕面行直通運行や、新設の（仮）栗生・萱野線で代替して運行することは、非常に効率的な妙案である。
- ・ただし、箕面山麓線を他路線で代替して運行することによって廃止区間が生まれる場合は、その区間の存廃について、検証を行う必要がある。

②箕面中央線の千里中央行について

- ・分科会での検討では、速達性の検証結果から、箕面中央線は箕面船場阪大前駅止まりとなっていたが、今回修正された「阪急バス案」では一部便が千里中央行となっており、利用者としては選択肢が増えるというのは非常にありがたい。

③「阪急バス案」との相違路線（箕面中央線及び（仮）箕面小野原線の箕面萱野行）について

- ・阪急バスとして、相違路線の運行は、採算面から対応できないが、市の負担で社会実験するのであれば、対応は可能。
- ・相違路線については、採算性を検証したうえで、ルート案の検討及び費用負担のあり方を引き続き協議する必要がある。

3. ルート案の修正について

①箕面山麓線を他の既存・新設路線で代替することについて

- ・箕面山麓線を他路線で代替して運行することによって生まれる廃止区間の採算性を検証する【資料1－2】。
- ・代替路線として挙げられている北大阪ネオポリス線のクリーンセンター前経由余野行の路線について、採算性を検証する【資料1－3】。
- ・第6回分科会でのご意見と採算性の検証結果から、より効率的な運行ルートであり、より効果的な移動が確保されと考えられることから「阪急バス案」を採用し、箕面山麓線を既存の彩都線・北大阪ネオポリス線の箕面行直通運行や、新設の（仮）栗生・萱野線で代替するルート案とする。

②箕面中央線及び（仮）箕面小野原線の千里中央行について

- ・行き先としての選択肢が増えるとともに、採算面も阪急バスで対応されることから、「阪急バス案」を採用し、箕面中央線は一部便に限り千里中央行、（仮）箕面小野原線は千里中央行のルート案とする。

③相違路線（箕面中央線及び（仮）箕面小野原線の箕面萱野行）について

- ・箕面中央線及び（仮）箕面小野原線の箕面萱野行については、「分科会での検討に基づく再編ルート案」と「阪急バス案」と相違していることから、案件（2）で検証する。